

田平遺跡 II

田平遺跡高道地区調査概報

宇土市埋蔵文化財調査報告書第14集



1 9 8 6

熊本県宇土市教育委員会

田平遺跡 II

田平遺跡高道地区調査概報

宇土市埋蔵文化財調査報告書第14集

1 9 8 6

熊本県宇土市教育委員会

序 文

このたび、市内上網田町の圃場整備事業に先立ち田平遺跡の発掘調査を国と県の補助を受け実施しました。

田平遺跡は、昭和55年の調査時に、本市に於いて初めて旧石器時代の遺物が出土した遺跡であります。また、網田平野周辺部の丘陵には、古墳の変遷を知る上で貴重な古墳群などもあり、注目を集める地域と思われれます。

さて、調査の成果につきましては、本書にはその概要の収録にとどまりましたが、今後も調査の計画がありますので、あわせて詳しい報告を行なう予定です。

最後になりましたが、調査に協力いただきました各位に対し、深く感謝の意をあらわします。

昭和 6 1 年 3 月

宇土市教育委員会

教 育 長 船 田 至

例 言

1. 本書は、宇土市教育委員会が昭和60年度国庫・県費補助事業として実施した^{たびら}田平遺跡高道地区の発掘調査概報である。
2. 実測で用いたレベルは、海拔標高である。
3. 本書中の遺構・遺物の実測・製図・写真撮影は、主に高木恭二・木下洋介・元松茂樹が行なった。
4. 出土遺物・その他の資料は、宇土市教育委員会が保管している。
5. 表紙は、田平遺跡の遠景。
6. 本書の執筆・編集は木下・元松が担当した。

目 次

I 序 説	1
1 はじめに	1
2 調査の組織	1
II 立地と環境	2
付・考古資料	9
III 調査の概要	29
1 調査区	29
2 遺 構	31
3 遺 物	33
IV 最後に	34

I 序 説

1 はじめに

田平遺跡は、昭和55年に第1次の発掘調査が行われ、その際に、旧石器・縄文・弥生・古墳・中世・近世の各時代の遺物が出土している。特に旧石器は、宇土半島から天草島嶼にかけ唯一の出土例である。

遺跡の立地は歴史的・地理的環境に恵まれている。遺跡の位置する平野部は大宅郷の中心村落の比定、『肥後郡浦庄応永11年地検帳』にみえる網田里の想定など、文献サイドからの研究がなされている。また、周辺丘陵には数多くの遺跡が確認されていて、昭和35年3月に城1号墳、47年1月にマブシ古墳群、53年12月から54年12月まで5次にわたる城2号墳、57年7月の田平城跡、60年2月のヤンボシ塚古墳などの発掘調査が行われている。地形的には、網田平野の中央に位置する微高地上にあり、歴史的環境とあわせ、絶好の立地条件をそなえている。

ところで、今回の調査は、前回同様圃場整備事業に伴うもので、工事面積約3haを対象に6月10日から8月9日まで発掘調査を実施した。梅雨の時期ではあったがまとまった雨もなく順調に作業は進行し当初の予定よりも短い期間で終了した。

夏の日射しと雷雨に悩まされながらの作業にあたられた方々に深く感謝の意を表します。

2 調査の組織

調査主体	宇土市教育委員会
	教育長 船田 至
調査総括	社会教育課長 本郷裕幸
	文化振興係長 一 宗雄
調査庶務	参 事 中野照子
調査担当	主 事 高木恭二
	主 事 木下洋介
調査補助	松尾政義・堤ユキエ・畑中ツヤ・川口ヤス子・白石ふゆ子・北口ヤス子
	松尾理絵・沢宮 優・木下俊恵・川西賀世子・元松茂樹
調査協力	嶽下武義（網田団体営土地改良組合長）
	村田房夫（宇土市文化財保護審議委員）
	益田信幸・村崎ミスエ
	川口 登建設
	宇土市役所農政課
	(敬称略)

II 立地と環境

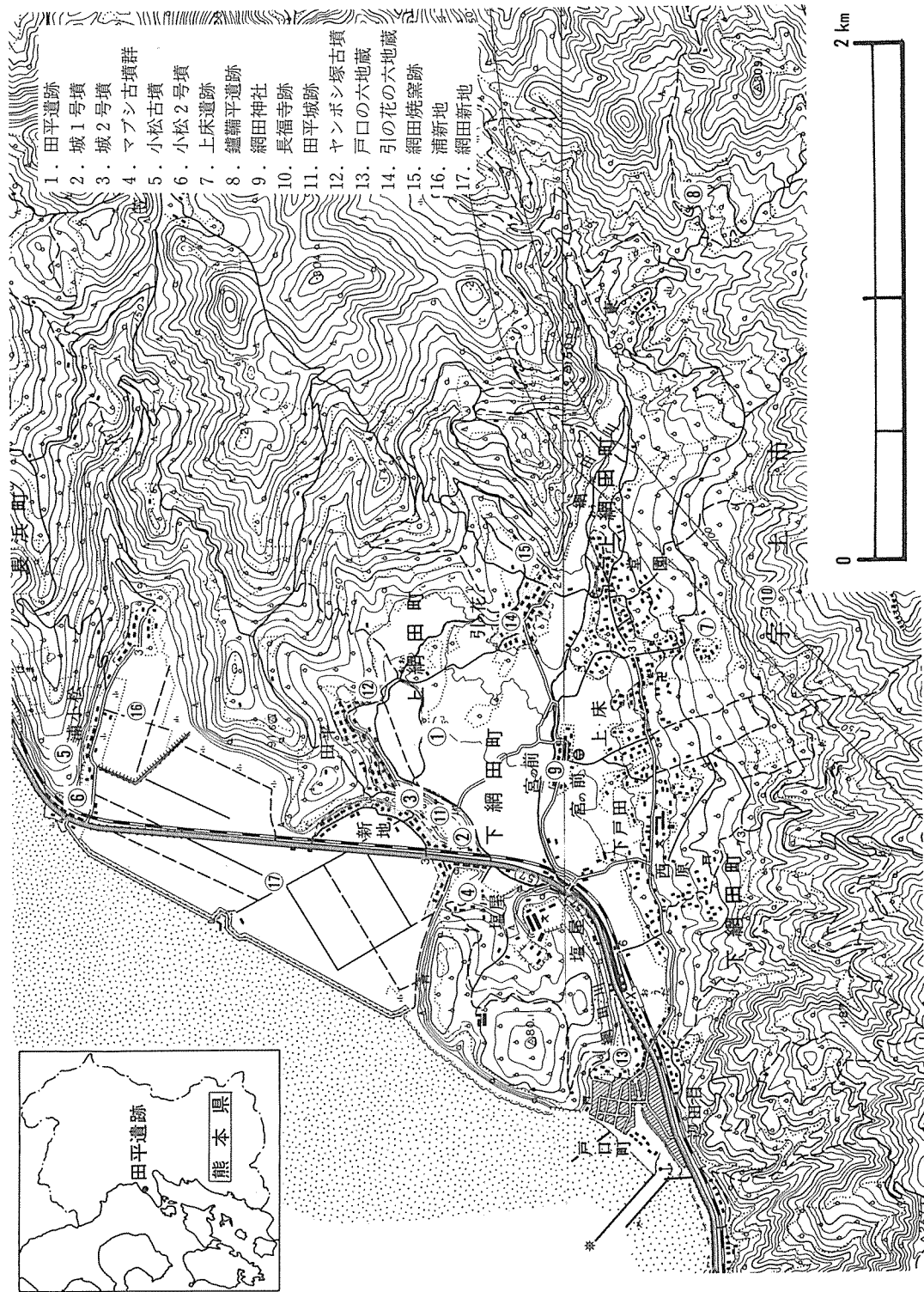
九州のほぼ中央部に位置する宇土市から、不知火海と有明海とを南北に分断するように西側に突出した宇土半島は、大岳（標高478m）を主峰とする山塊と、その谷間の小規模な平野から成っている。不知火海に面する南岸は、緩やかな傾斜の舌状丘陵が数多く派生し、それらの中に形成された狭小な平野とによって、入江の多い複雑な海岸線をなしている。それに対して有明海に面する北岸は、急な傾斜の丘陵が海岸まで迫っている為に平野部に恵まれず、海岸線も比較的単調である。その北岸で唯一の平野部と言える網田平野は、大岳山塊に源を発し有明海に注ぎ込む網田川沿いに発達した扇状地であり、東西1.3km、南北1.2kmの範囲を占めている。しかし、周囲の大部分を山陵で囲まれて盆地状をなしており、有明海に面しているのは網田川の河口域ぐらいのものである。田平遺跡は、その網田平野の中央部から東端にかけての微高地（標高約4～10m）上に位置している。

網田平野及びその周辺の地域には、旧石器時代から近世に至るまでの各時代の遺跡が分布している。それらの遺跡の歴史的環境についての概要を、時代別に述べてみることにする。

旧石器時代 宇土市教育委員会が、昭和55年に調査した田平遺跡から、宇土半島では初めての旧石器が出土した。これは、スクレーパーとナイフ型石器であるが、遺構に伴ったものではなく、他からの流れ込みによるもので層序的には不明である。しかし、宇土半島で初めての出



網田平野空中写真



網田平野遺跡分布図 (1 : 25,000)

土という点でも、貴重な発見である。

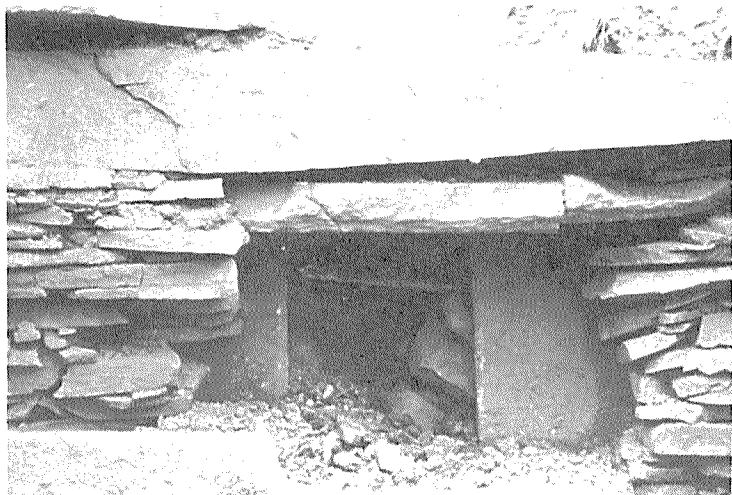
縄文時代 田平遺跡(S.55調査区)から、後期から晩期にかけての土器片や、石鏃・楔形石器等が出土しているが、大規模な遺跡は見つかっていない。

弥生時代 今のところ、前期の遺物は確認されていないが、中期以降の遺物は出土している。また、網田平野が扇状地である為に、水利・水捌けに恵まれ、水田としての開発が容易であったと思われる。

古墳時代 宇土半島基部では、前方後円墳が全時期を通じて築かれる。現在確認されているもので12基あり、九州でも有数の前方後円墳密集地域である。しかし、半島域においては円墳・石棺が中心で、前方後円墳は確認されていない。網田の古墳は、網田平野を囲む丘陵上に、3群にわかれて存在している。第1群は、平野西側の塩屋丘陵上にあるマブシ古墳群と、その北東に位置する城古墳群である。この2つの古墳群は、現在、国道57号線と国鉄三角線とによって分断された形になっているが、本来は同一丘陵であったので、2つをまとめて1群とするのが妥当であろう。マブシ古墳群^(註2)は、箱式石棺や石棺系石室などから成っており、城古墳群は円墳2基と箱式石棺数基により成っている。そのうちの城1号墳^(註3)は、石障系の肥後型横穴式石室である。城2号墳^(註4)は、直径20~25mの円墳で、竪穴系横口式石室を主体にもち、琴柱型石製品などが出土しているが、いずれも5世紀代の築造と思われる。第2群は、城古墳群から北東へ500m程離れた丘陵にある、ヤンボシ塚古墳を中心とした地域である。ヤンボシ塚は、城2号墳と同規模の円墳で、城1号墳に類似した肥後型横穴式石室を主体に持っているが、注目すべきは石障に円文の陰刻を、また石材2個に舟の線刻を施した装飾古墳であること



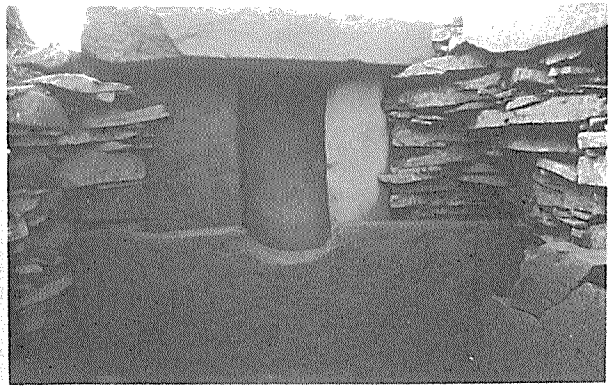
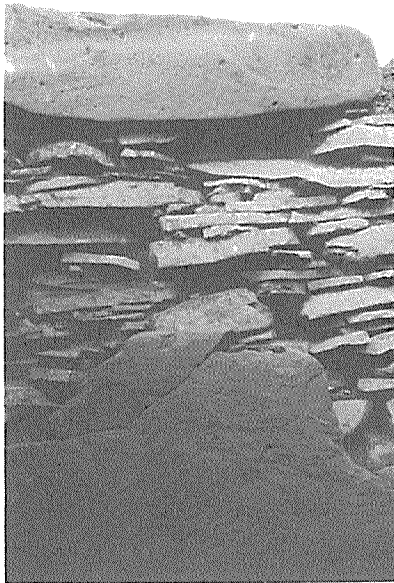
田平遺跡出土旧石器



城1号墳石室



城 2 号 墳 石 室



ヤンボシ塚古墳石室

である。また、付近に古墳の石材らしきものが散在しており、鉄刀が出土したという話も聞かれるので、ヤンボシ塚古墳以外にも数基の古墳が存在していたことが想像される。第3群は、浦新地の北側丘陵にある小松古墳群である。そのうちの小松^(註5)古墳は、正方形に近い竪穴式石室(?)を持っており、小松^(註6)2号墳は、石棺系石室が2基並行している。また、付近には石棺の石材が多数散在しており、かなりの数の古墳があったものと思われる。以上のように、網田の古墳群と宇土半島基部の古墳群とは、墳形や石室構造などの点で決定的な違いを示している。

古代 「和名抄」によると、宇土郡内に4つの郷が置かれているが、従来の研究によると、そのうちの林原・桜井・諫染の3郷が半島基部に、残る大宅郷が半島部最大の網田平野に比定されている。その他として未調査ではあるが、古代末から中世にかけての所産であると思われる^(註7)^(註8) 鑑鞆平・上床の遺跡から、ふいごの羽口やスラグが採集されており、その頃には鉄の生産が始まっていたと推測できる。

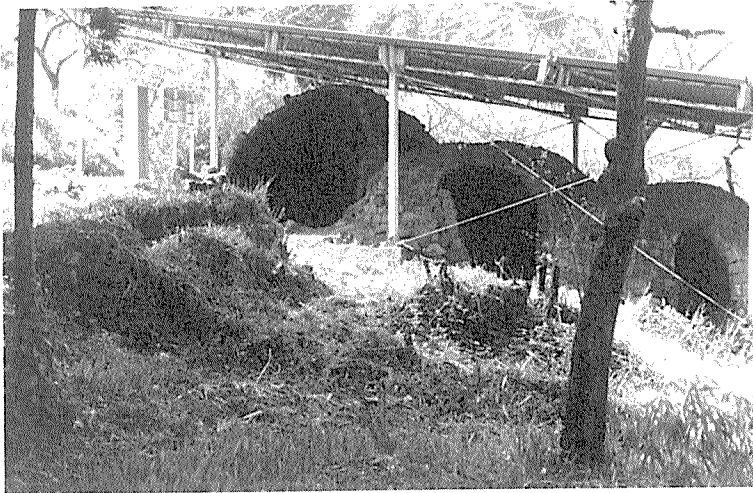
中世 応永11年(1404年)の「肥後郡浦庄応永11年地検帳」によると、網田に33坪を除く1坪から36坪までの坪付地名がみられる。しかし、この坪名も地名としては残存していない。その条里制地割の比定は、牧野洋一氏や熊本県教育委員会などによりなされてはいるものの、現地の状況その他を見た限りではやや不都合な点が多い。また、平野東側の塩屋丘陵上に、宇土城(名和氏の居城=西岡台)の支城として^(註9) 田平城が築かれた。また、大岳山頂(標高478m)に



田平城跡空中写真

(註10) 大嶽城、その北西の雄岳(標高348m)には雄嶽城(註11)が築かれたと伝えられている。社寺関係の遺跡としては、元徳二年(1330年)などの墨書胎内銘をもつ薬師如来像があった長福寺跡(註12)がある。

近世 寛政4年(1792年)、引の花に細川家の御用窯として網田焼が開窯される。しかし、35年後の文政10年(1827年)に藩の保護を解かれ、その後は次第に衰退し、大正初期にはすべて廃窯となった。また、浅瀬を利用した干拓が行われ、江戸後期に浦新地(註13)(約9町)が、江戸末期から明治にかけては網田新地(註14)(約67町)が形成された。



網田焼窯跡

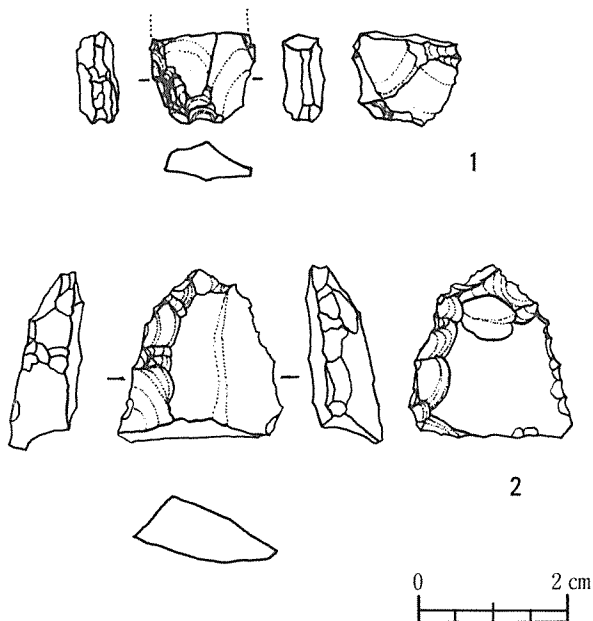
- 1) 平山修一、1981年『田平遺跡』宇土市埋蔵文化財調査報告書第5集、宇土。
- 2) 富樫卯三郎・卯野木盈二、1975年「宇土市下網田町マブシ出土の石棺」『宇土半島自然と文化』p107~118、宇土。
- 3) 富樫卯三郎、1981年「城1号墳の発掘概要」註4 p83~88に収録。
- 4) 三島 格他、1981年『城二号墳』宇土市埋蔵文化財調査報告書第3集、宇土。
- 5) 富樫卯三郎、1984年「考古ノート」『宇土市史研究』第5号、宇土。
- 6) 註5に同じ。
- 7) 富樫卯三郎、1981年「上綱田・鏡鞆平について」『とどろき』第7号、p2、宇土。
- 8) 松本健郎、1979年『生産遺跡基本調査報告書I』熊本県文化財調査報告書第38集、p75、熊本。
- 9) 平山・木下、1983年「田平城跡」宇土市埋蔵文化財調査報告書第8集、宇土。
- 10) 熊本県教育委員会、1978年『熊本県の中世城』熊本県文化財調査報告書第30集、p239、熊本。

- 11) 註10に同じ。
- 12) 井上 正、1972年「長福寺跡薬師堂」『宇土市の文化財』第1集、p27、宇土。
- 13) 中島亀喜、1958年『網田村郷土誌』、宇土。
- 14) 註13に同じ。

付・考古資料

旧石器時代

田平遺跡

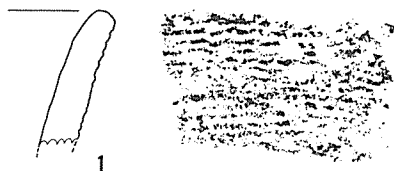


1. 田平遺跡出土石器 (1 : 1)

1. 田平遺跡出土石器 1 ナイフ形石器 安山岩製 2 ナイフ形石器 安山岩製
出典 豊崎晃一、1985年「49 田平遺跡」『肥後考古』第5集、p110-111、肥後考古学会、熊本。

縄文時代

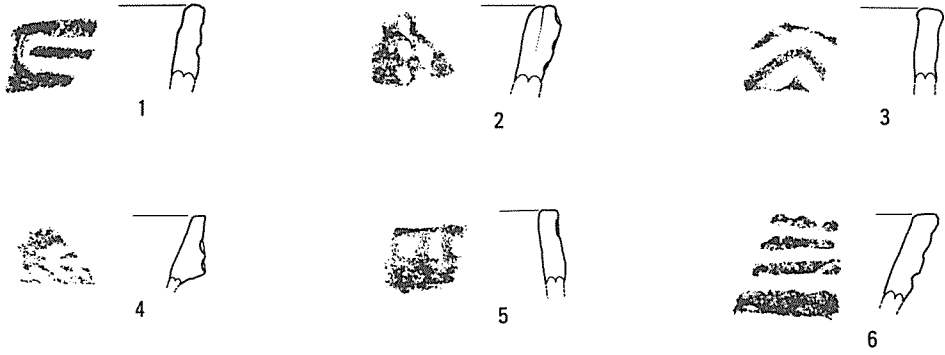
田平城跡



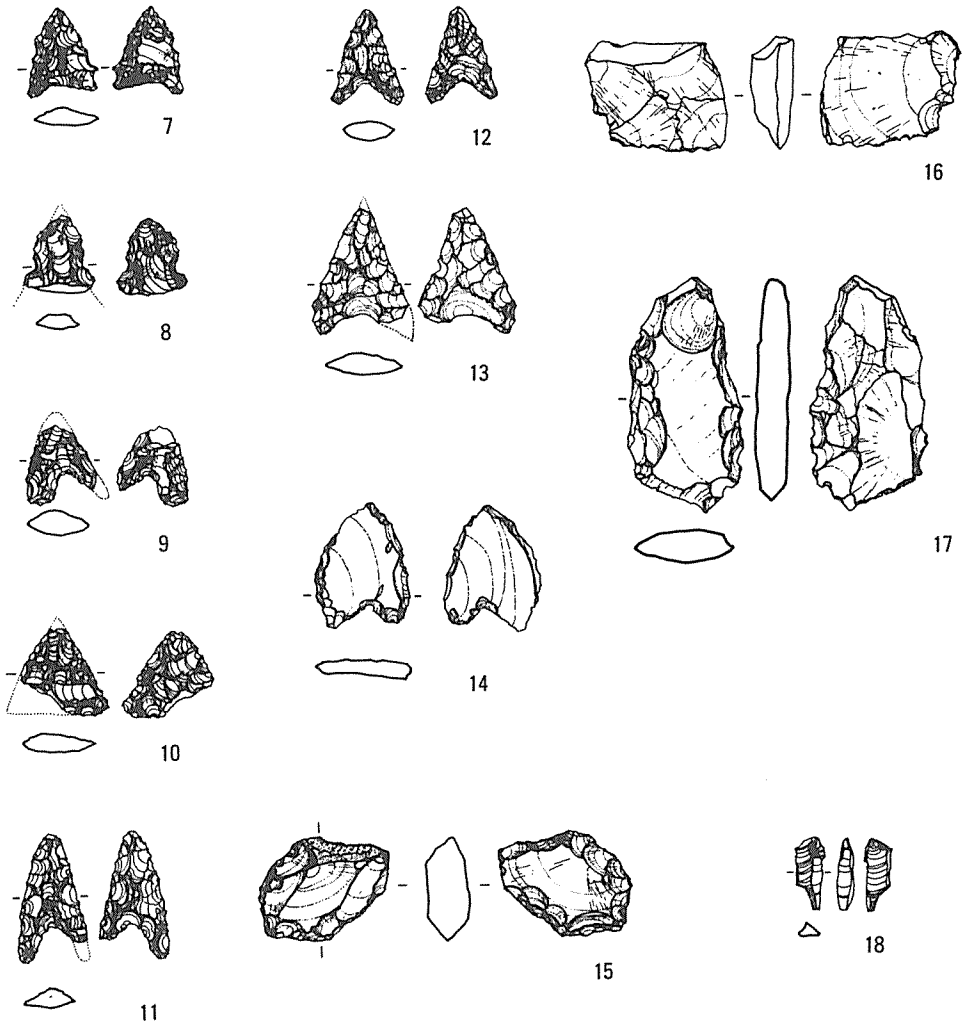
2. 田平城跡出土押型文土器 (1 : 3)

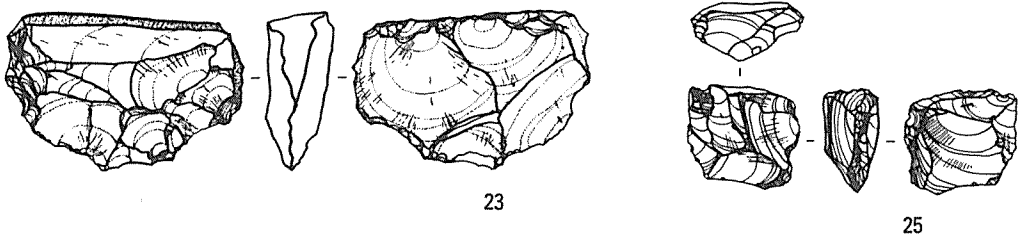
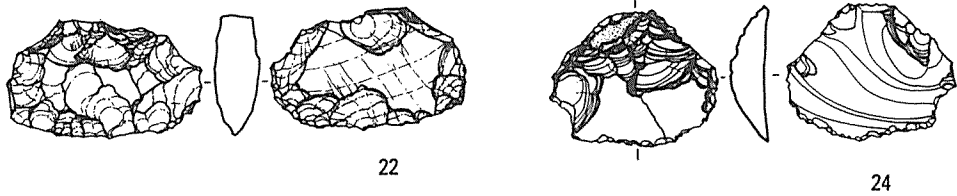
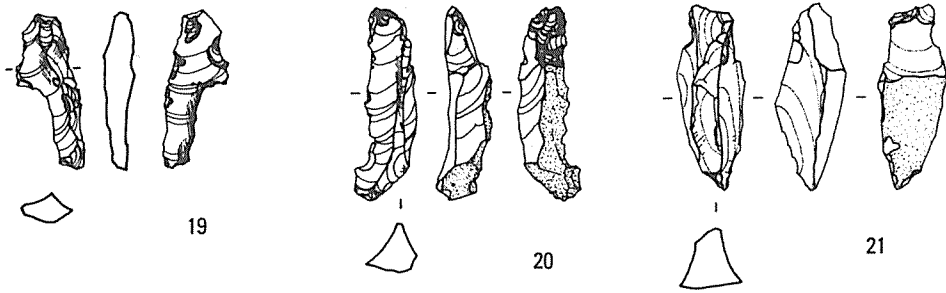
2. 田平城跡出土縄文土器 1 押型文土器
出典 平山修一・木下洋介、1983年『田平城跡』宇土市埋蔵文化財調査報告書第8集、p20、宇土市教育委員会、熊本。

田平遺跡



3-1. 田平遺跡出土土器 (1:3)





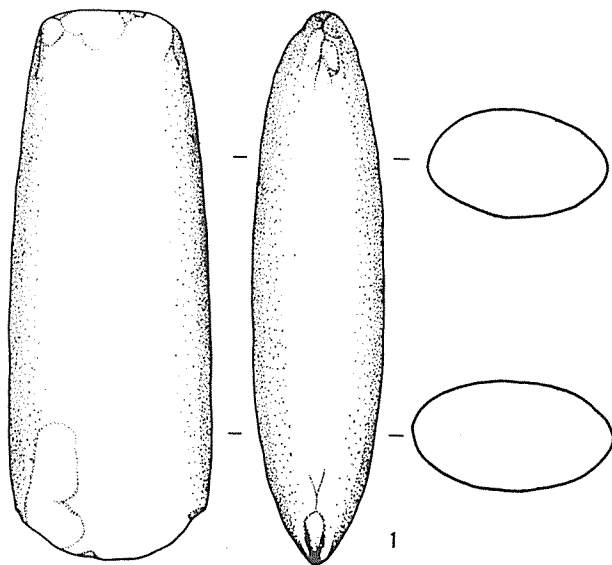
3-2. 田平遺跡出土石器(2:3)

3. 田平遺跡出土遺物 1~6 縄文土器 7~14 石鏃 15~17 契形石器 18~21 契形石器のスポール 22~23 スクレーパー 24 二次加工のある剝片 25 コア

出典 平山修一、1981年『田平遺跡』宇土市埋蔵文化財調査報告書第5集、宇土市教育委員会、熊本。

弥生時代

田平遺跡



4. 田平遺跡表採遺物 (1 : 3)

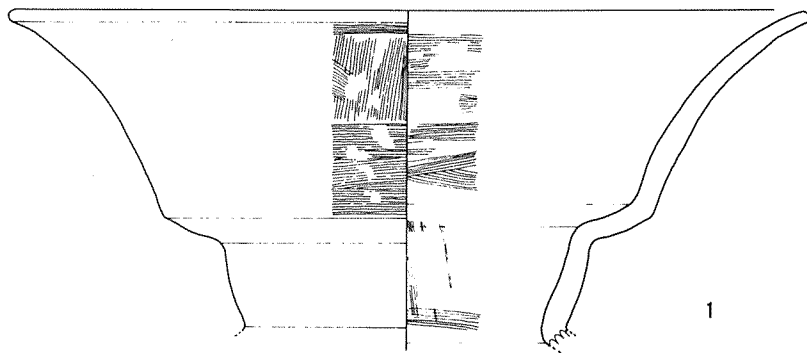
4. 田平遺跡表採遺物

1 玄武岩製太形蛤刃石斧

出典 高木恭二、1983年「宇土市田平遺跡・宇土城跡遺跡の玄武岩製太形蛤刃石斧」『宇土市史研究』
第四号、p36、宇土市史研究会・宇土市教育委員会、熊本。

古墳時代

城古墳群



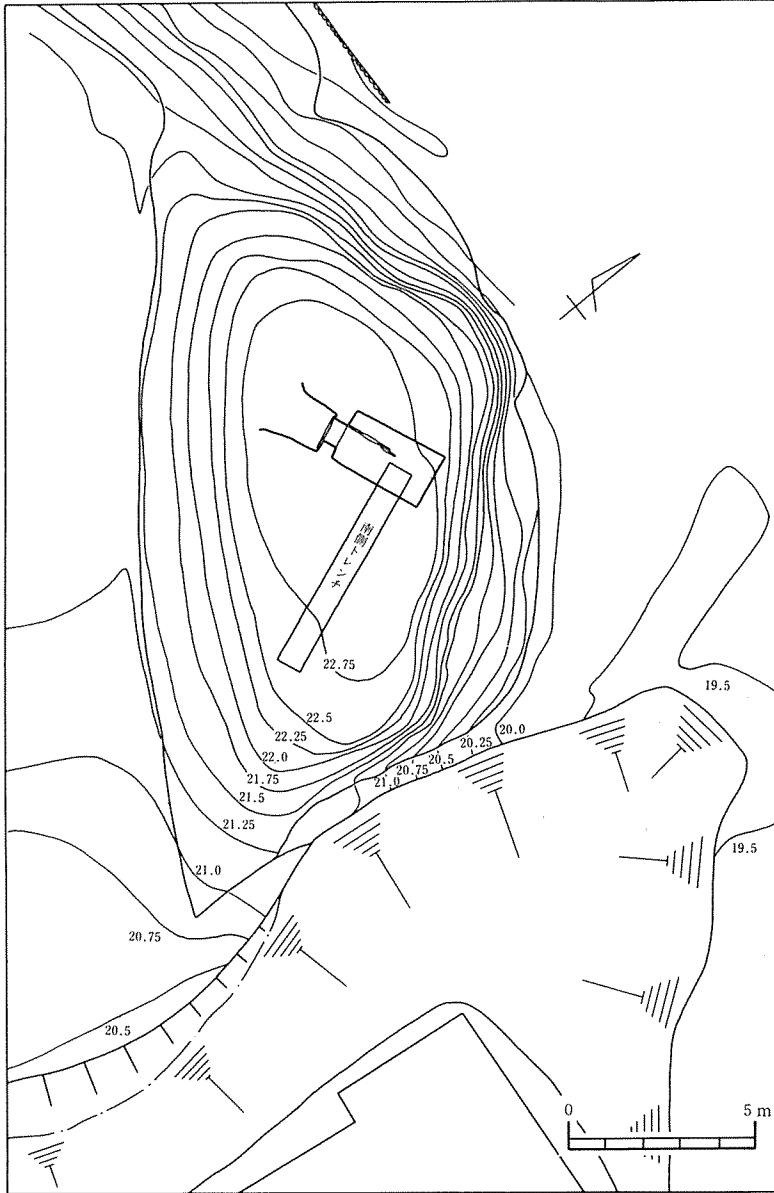
5. 城古墳群出土土師器 (1 : 3)

5. 城古墳群出土土師器

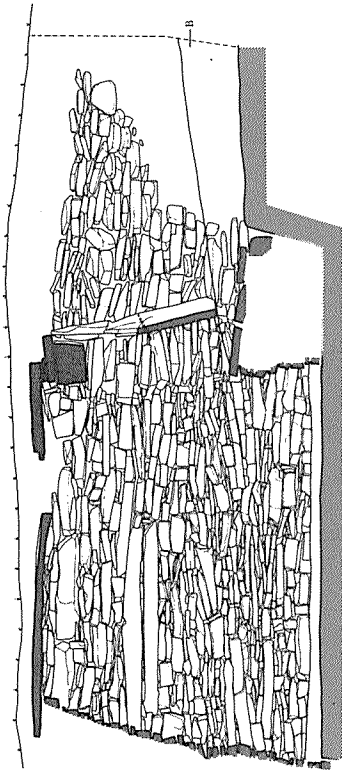
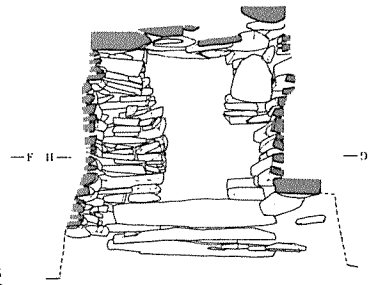
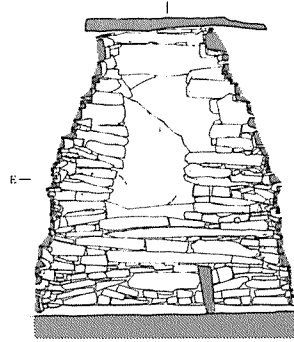
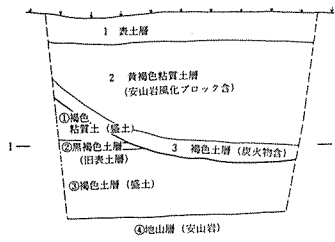
1 朝顔型二重口縁土器

出典 平山修一、木下洋介、1983年『田平城跡』宇土市埋蔵文化財調査報告書第8集、p20、宇土市教育委員会、熊本。

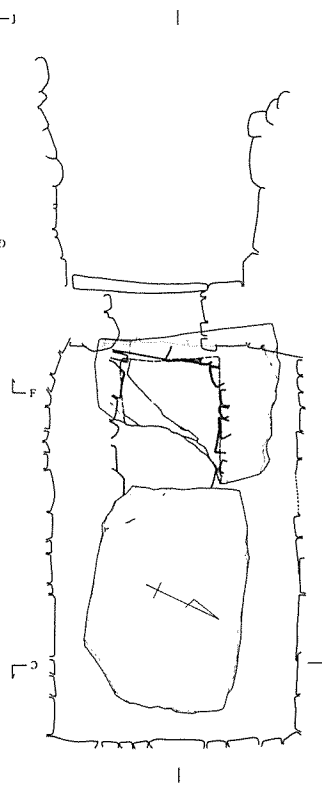
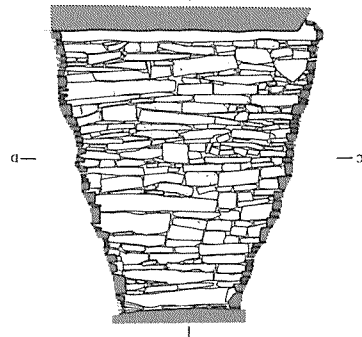
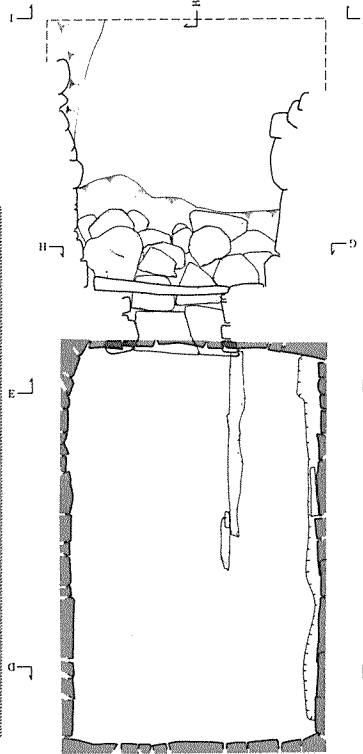
城 2 号墳



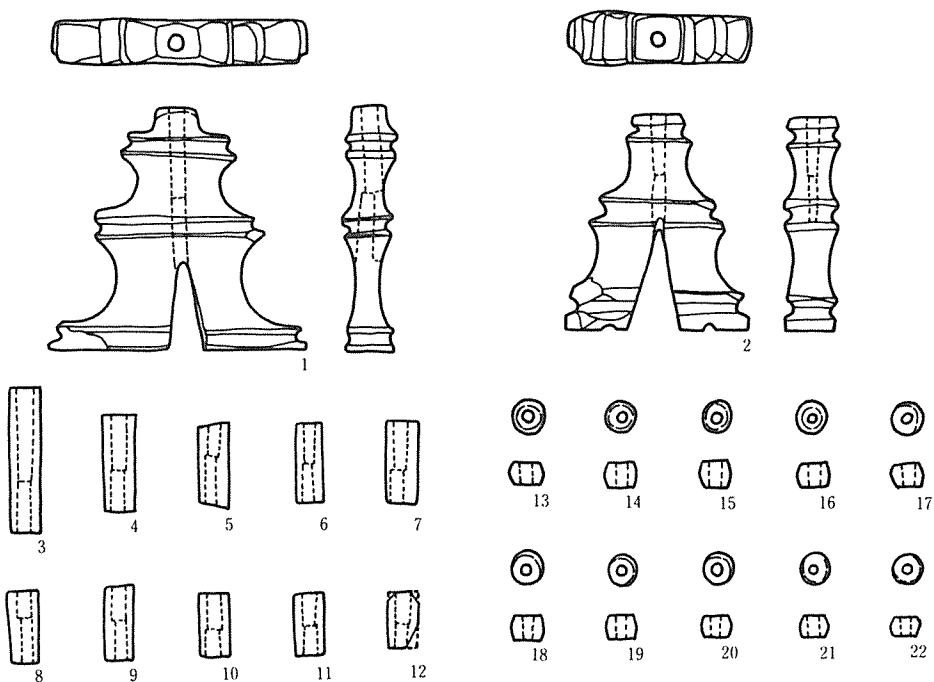
6. 城 2 号墳墳丘実測図 (1 : 200)



L = 21.75m



城2号墳石室実測図 (1:50)



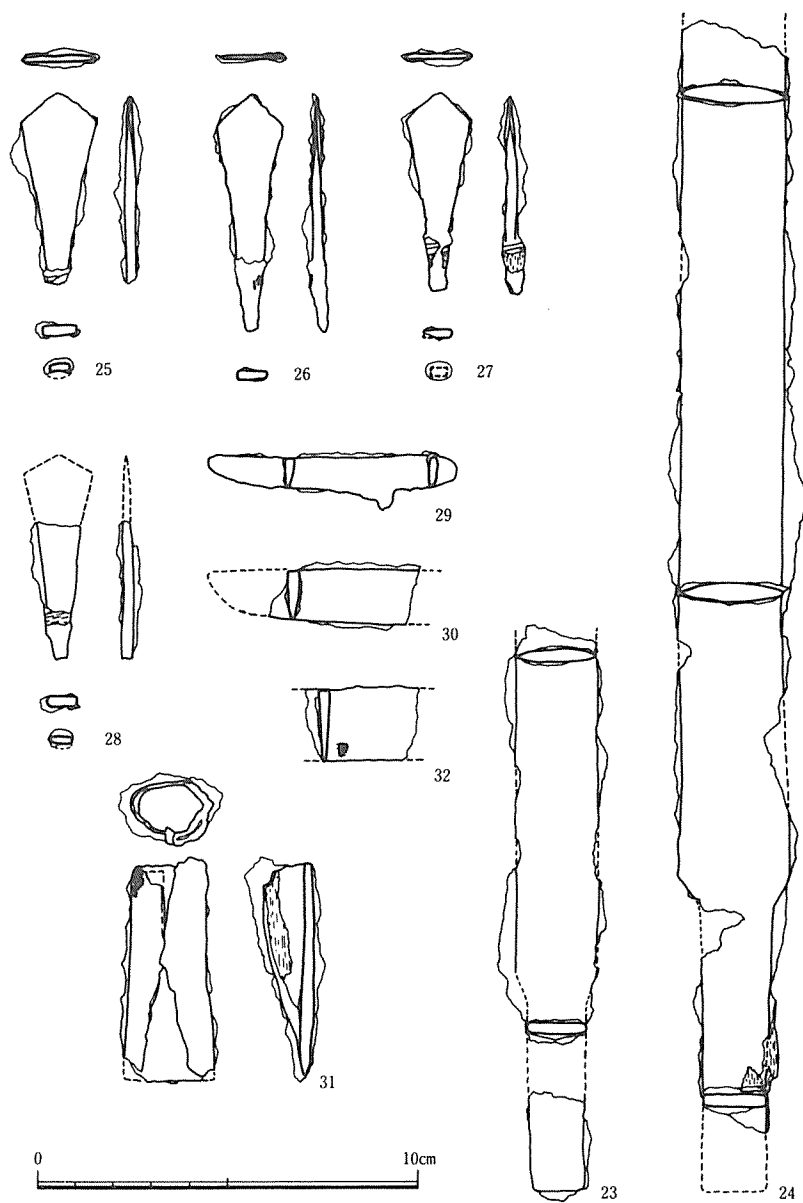
8. 城2号墳出土遺物実測図(1:1)

6. 墳丘 円墳

7. 石室 竪穴系横口式石室

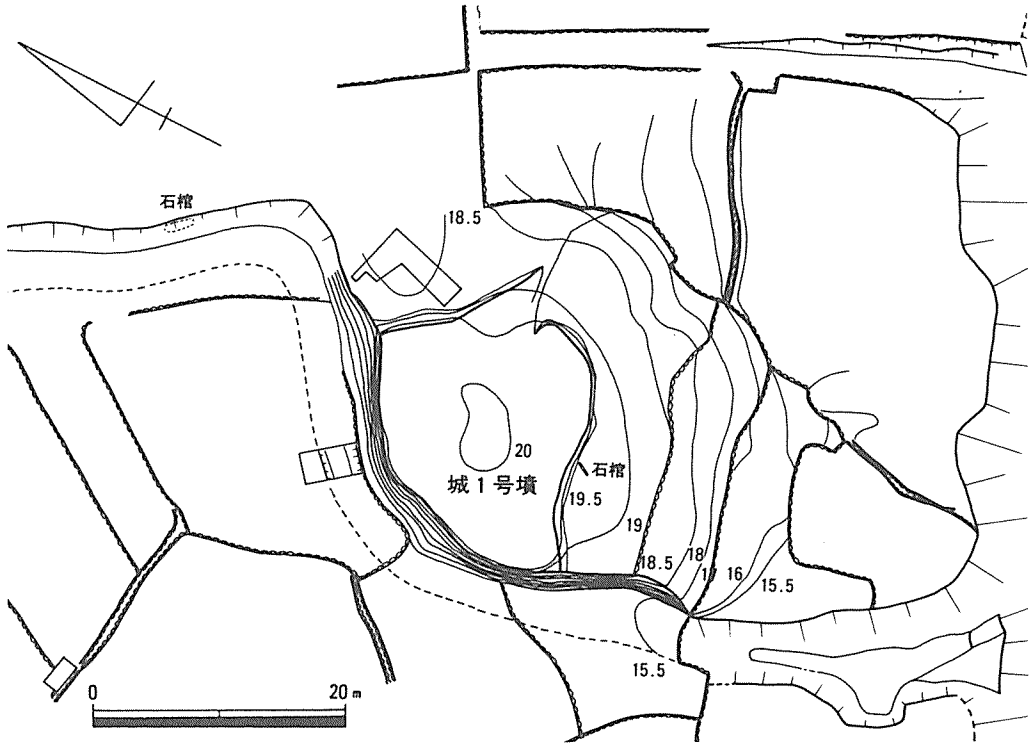
8・9. 出土遺物 1~2 滑石製琴柱形石製品 3~12 滑石製管玉 13~22 滑石製小玉
23~24 鉄劍 25~28 鉄鏃 29~30 刀子 31 鉄斧 32 鉄鎌

出典 三島格他、1981年『城2号墳』宇土市埋蔵文化財調査報告書第3集、宇土市教育委員会、熊本。

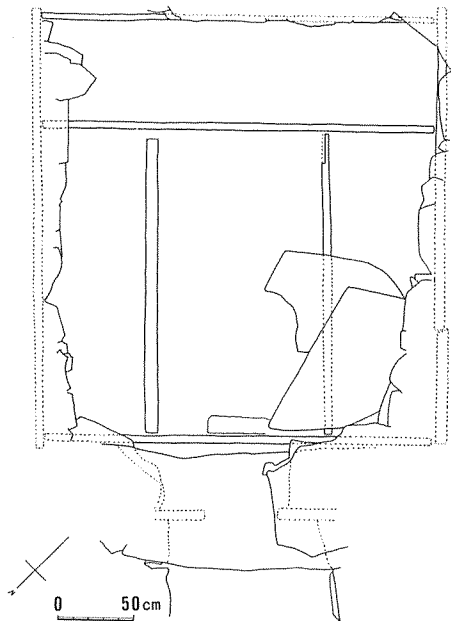


9. 城2号墳出土遺物実測図(1:2)

城1号墳



10. 城1号墳墳丘実測図 (1:600)



11. 城1号墳石室平面図 (1:50)

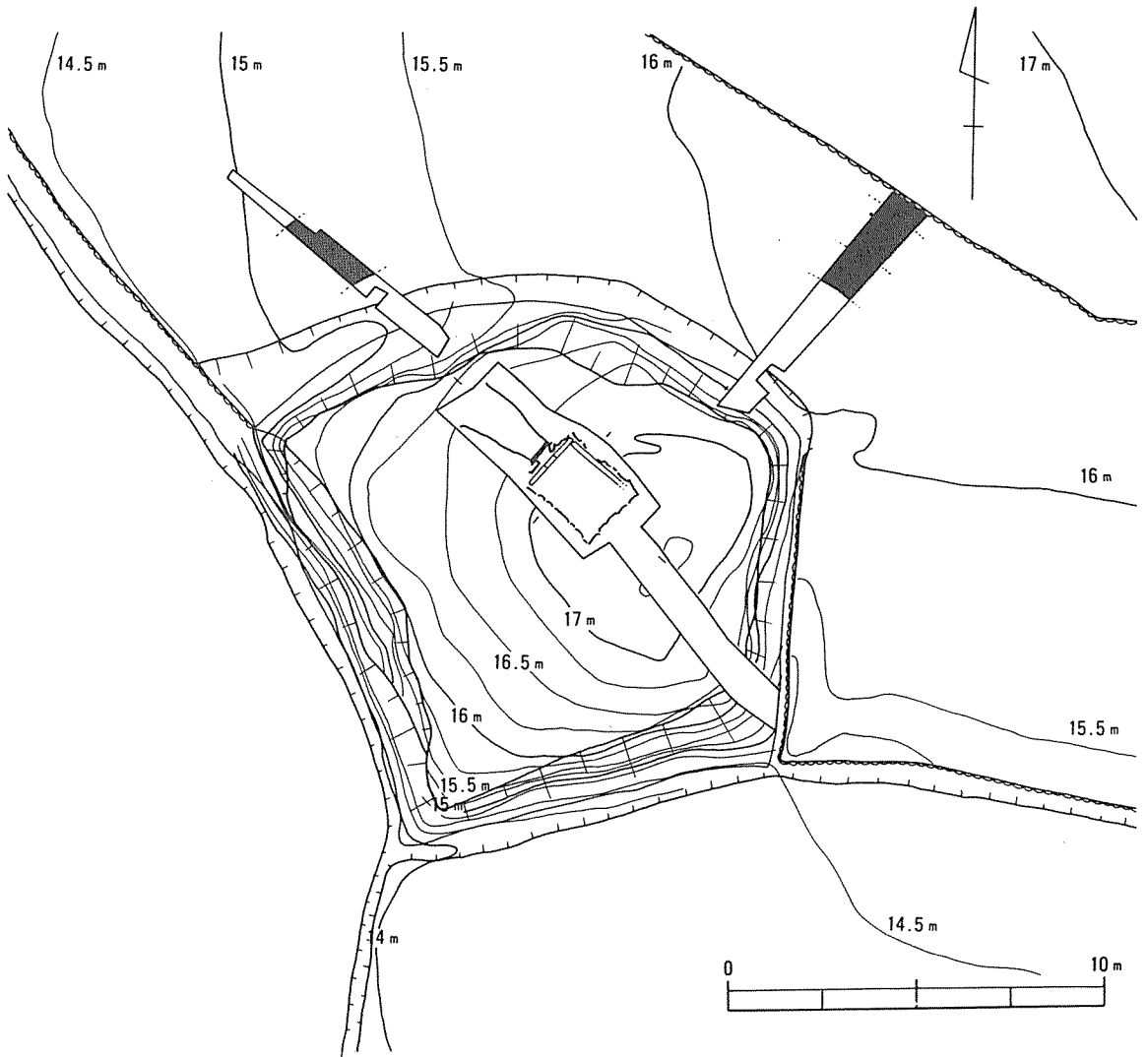
10. 墳丘 円墳

出典 平山修一・木下洋介、1983年『田平城跡』
宇土市埋蔵文化財調査報告書第8集、宇土
市教育委員会、熊本。

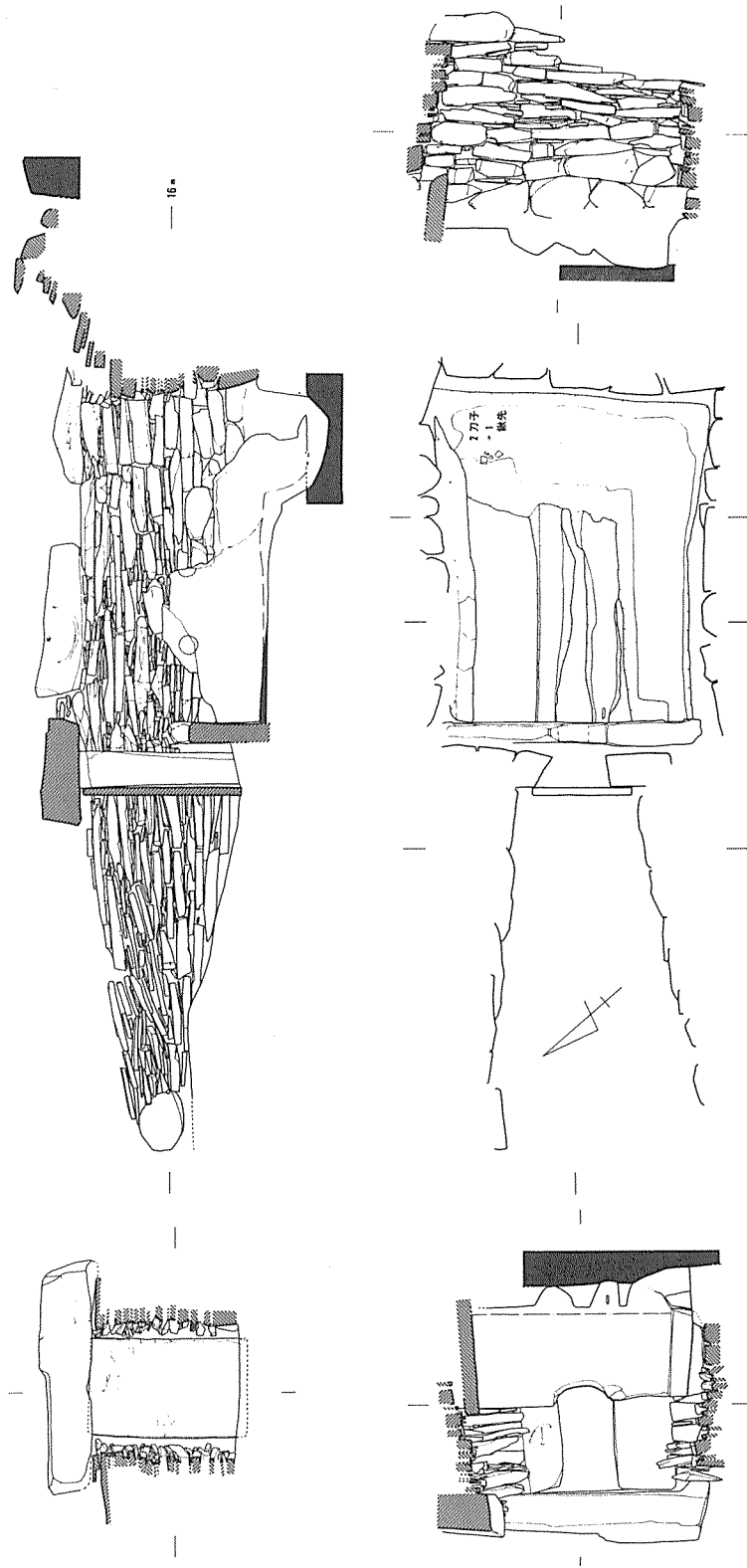
11. 石室 肥後型横穴式石室

出典 富樫卯三郎、1981年「城1号墳の発掘概要」
『城2号墳』宇土市埋蔵文化財調査報告書
第3集、宇土市教育委員会、熊本。

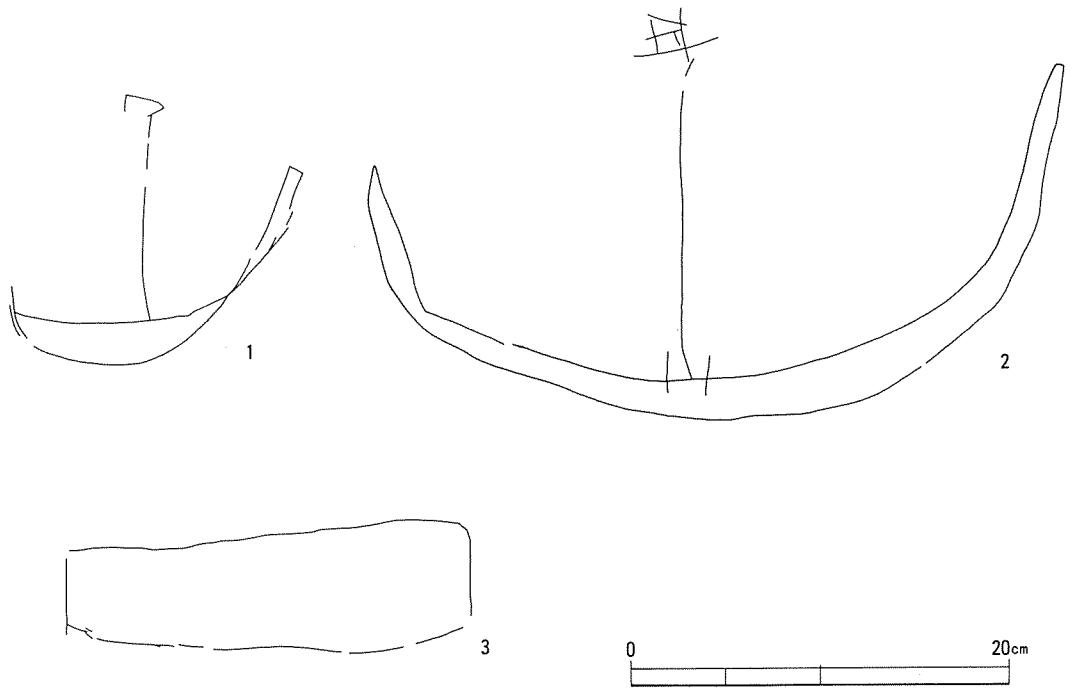
ヤンボシ塚古墳



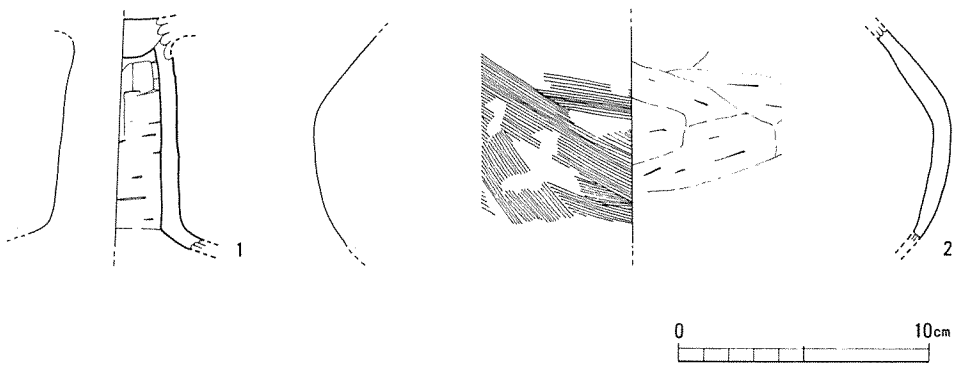
12. ヤンボシ塚古墳墳丘実測図 (1 : 200)



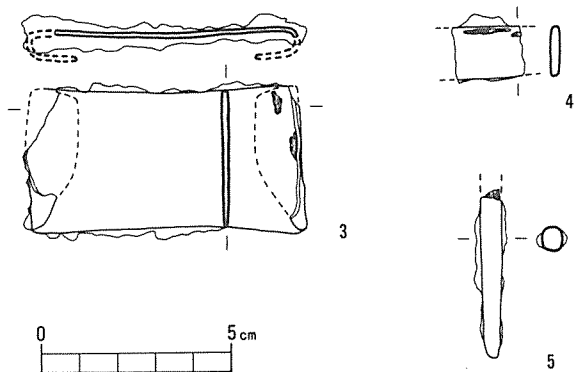
13. ヤンボシ塚古墳石室実測図 (1 : 50)



14. ヤンボシ塚古墳線刻実測図 (1 : 4)



15. ヤンボシ塚古墳出土土師器実測図 (1 : 3)



16. ヤンボシ塚古墳出土鉄器実測図（1：2）

12. 墳丘 円墳

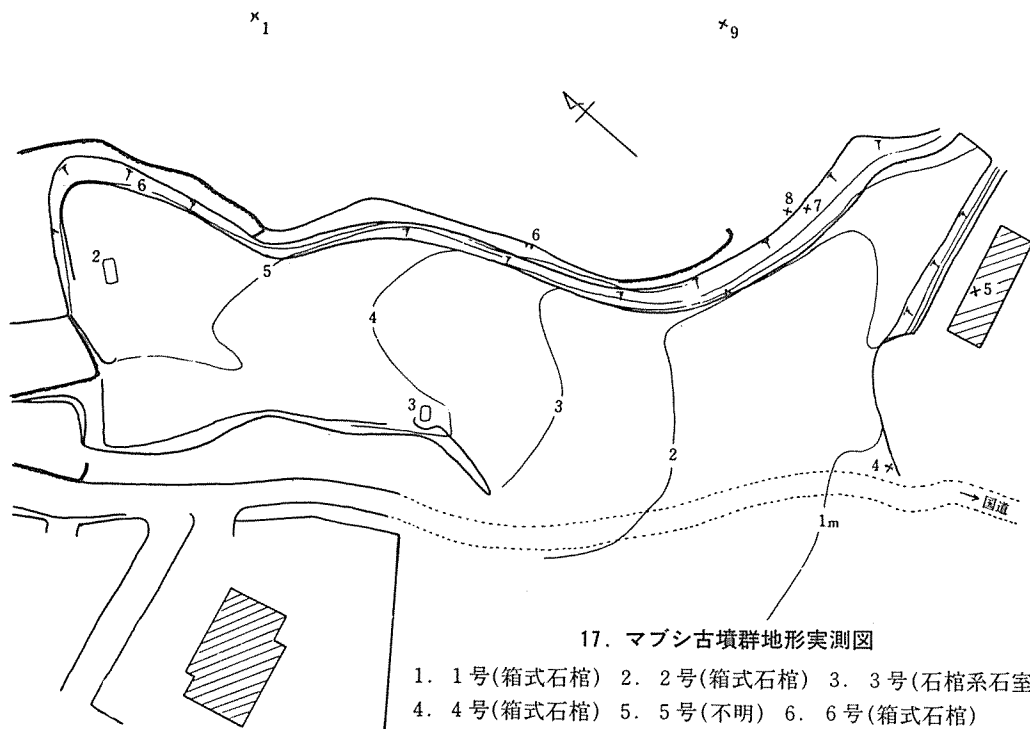
13. 石室 肥後型横穴式石室

14. 装飾 1・2 線刻船 3 矩形線刻

15・16. 遺物 1 高坏 2 壺 3 鉄鍬 4 刀子 5 鉄鏃

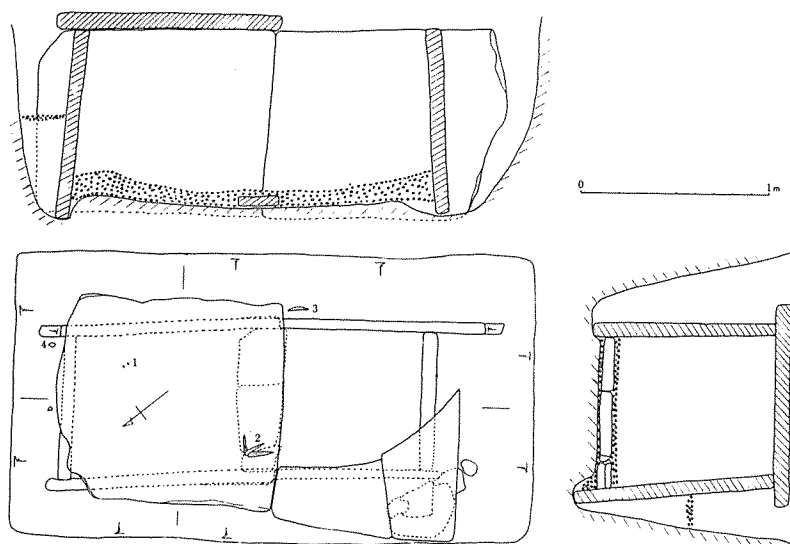
出典 高木恭二他、1986年『ヤンボシ塚古墳・檜崎古墳』宇土市埋蔵文化財調査報告書第13集、宇土市教育委員会、熊本。

マブシ古墳群



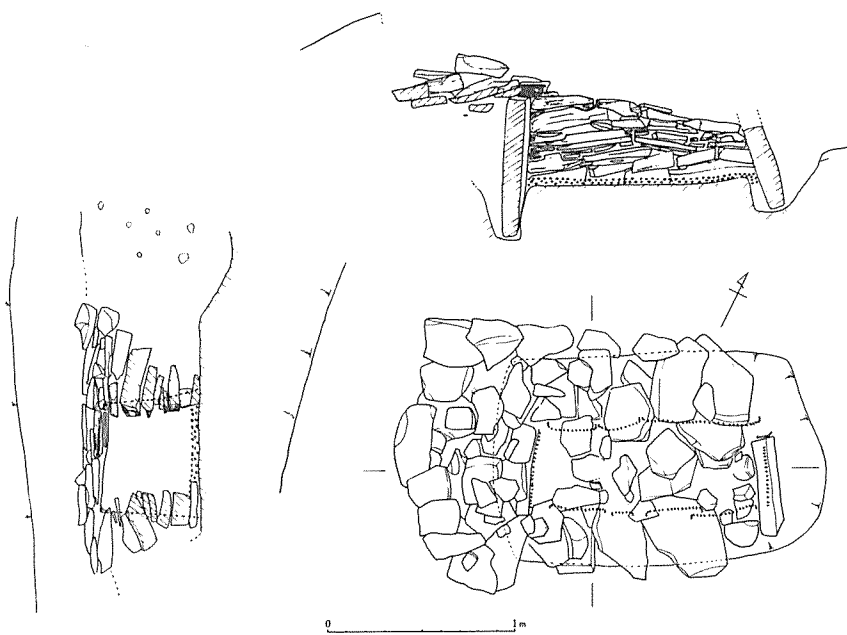
17. マブシ古墳群地形実測図

1. 1号(箱式石棺) 2. 2号(箱式石棺) 3. 3号(石棺系石室)
 4. 4号(箱式石棺) 5. 5号(不明) 6. 6号(箱式石棺)
 7. 7号(不明) 8. 8号(不明) 9. 9号(不明)
 国道57号線路面を0mとする。

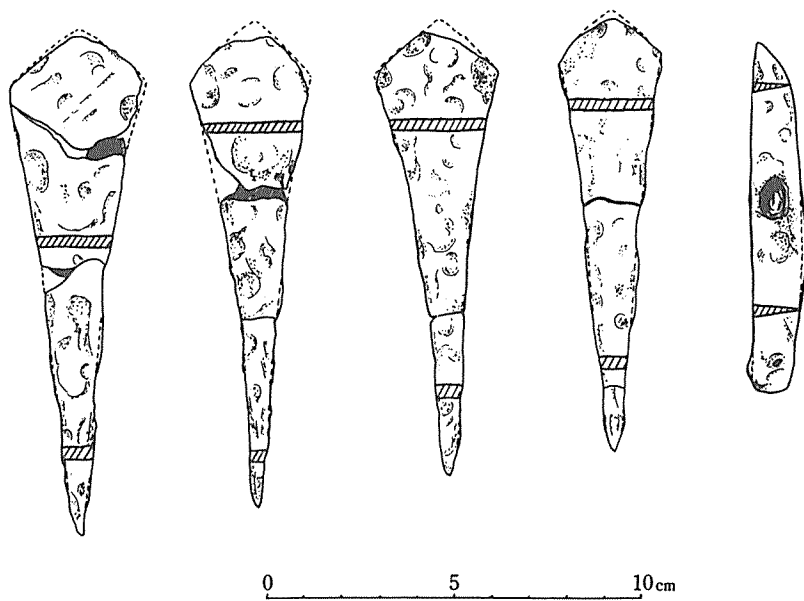


18. 2号(箱式石棺) 実測図 (1:40)

1. 齒片 2. 鉄鏃 3. 刀子



19. 3号(石棺系石室) 实测图(1:40)



20. 2号(箱式石棺) 出土遗物(1:2)

17. 測量図

18. 2号石棺 箱式石棺

19. 3号 石棺系石室

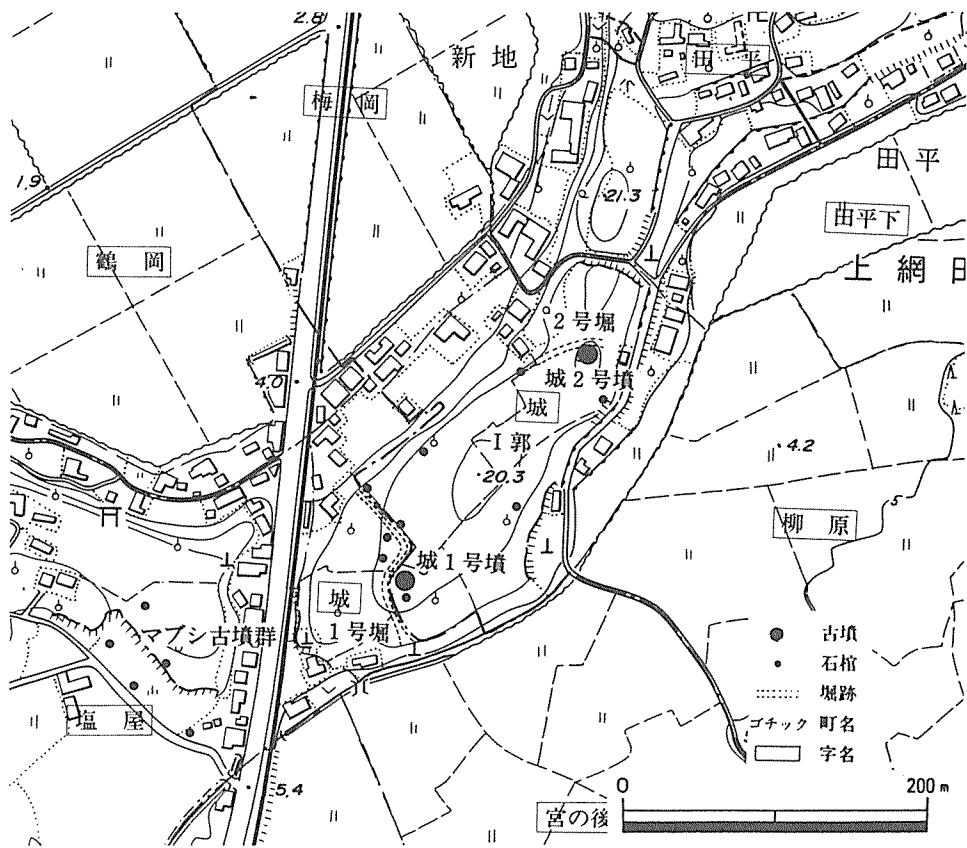
20. 2号石棺出土遺物 1~4 鉄鏃 5 刀子

出典 富樫卯三郎・卯野木盈二、1975「宇土市下網田町マブシ出土の石棺」『宇土半島自然と文化』p107

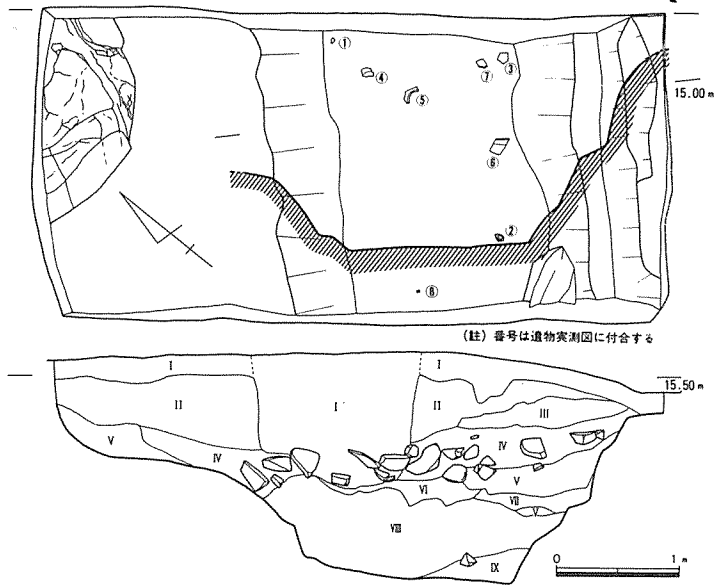
-118、宇土半島研究会、熊本。

中 世

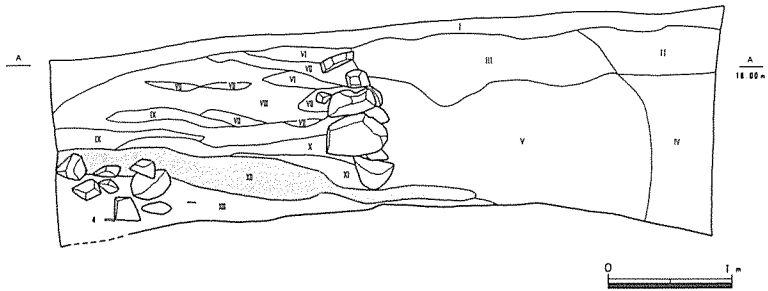
田平城跡



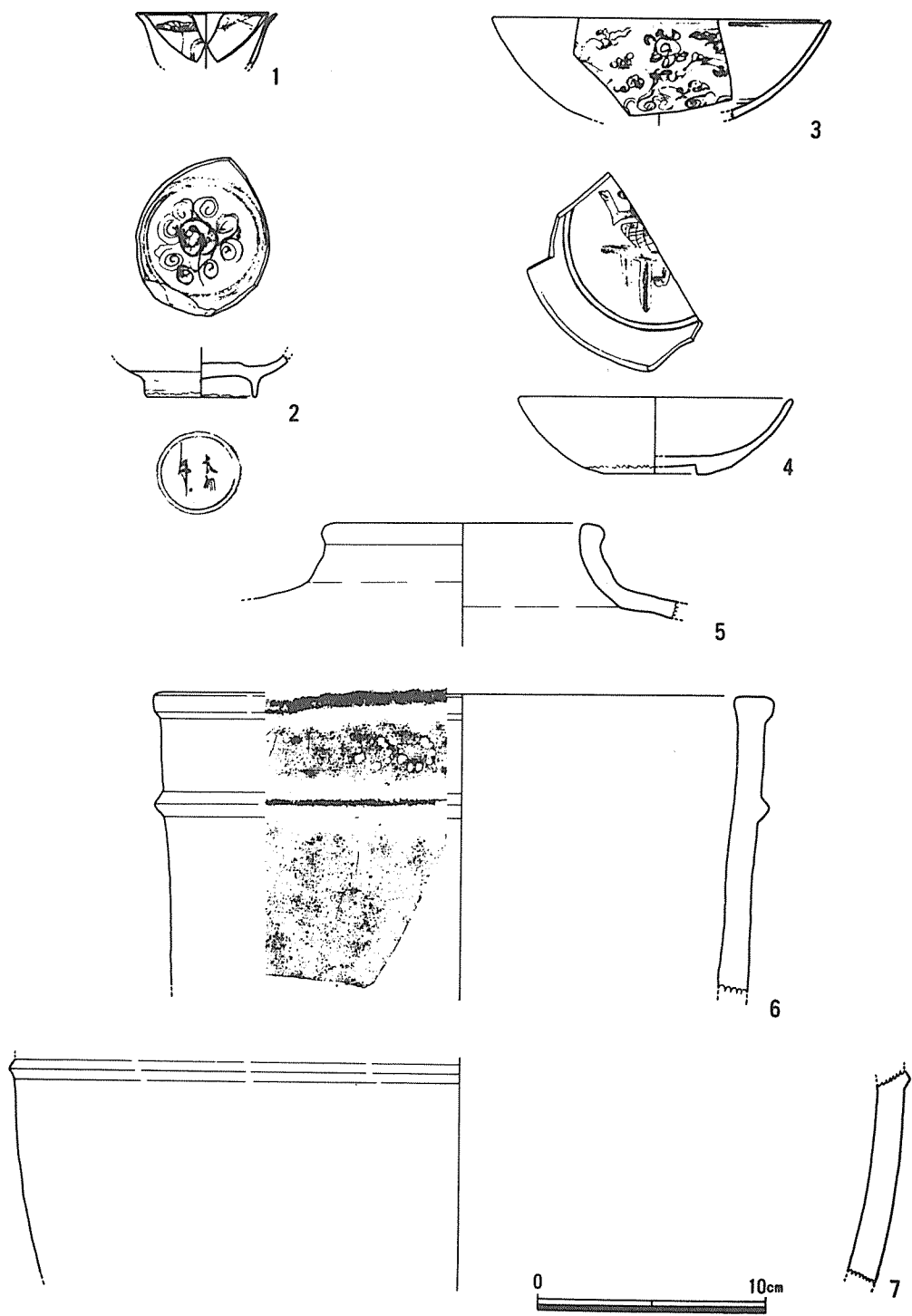
21. 田平城跡測量図 (1 : 5,000)



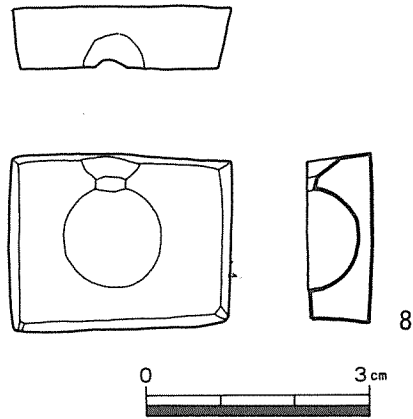
22. 田平城跡箱堀土層断面図 (1 : 60)



23. 田平城跡土塁土層断面図 (1 : 60)



24. 田平城跡出土遺物 (1 : 3)



25. 田平城跡出土遺物 (1 : 1)

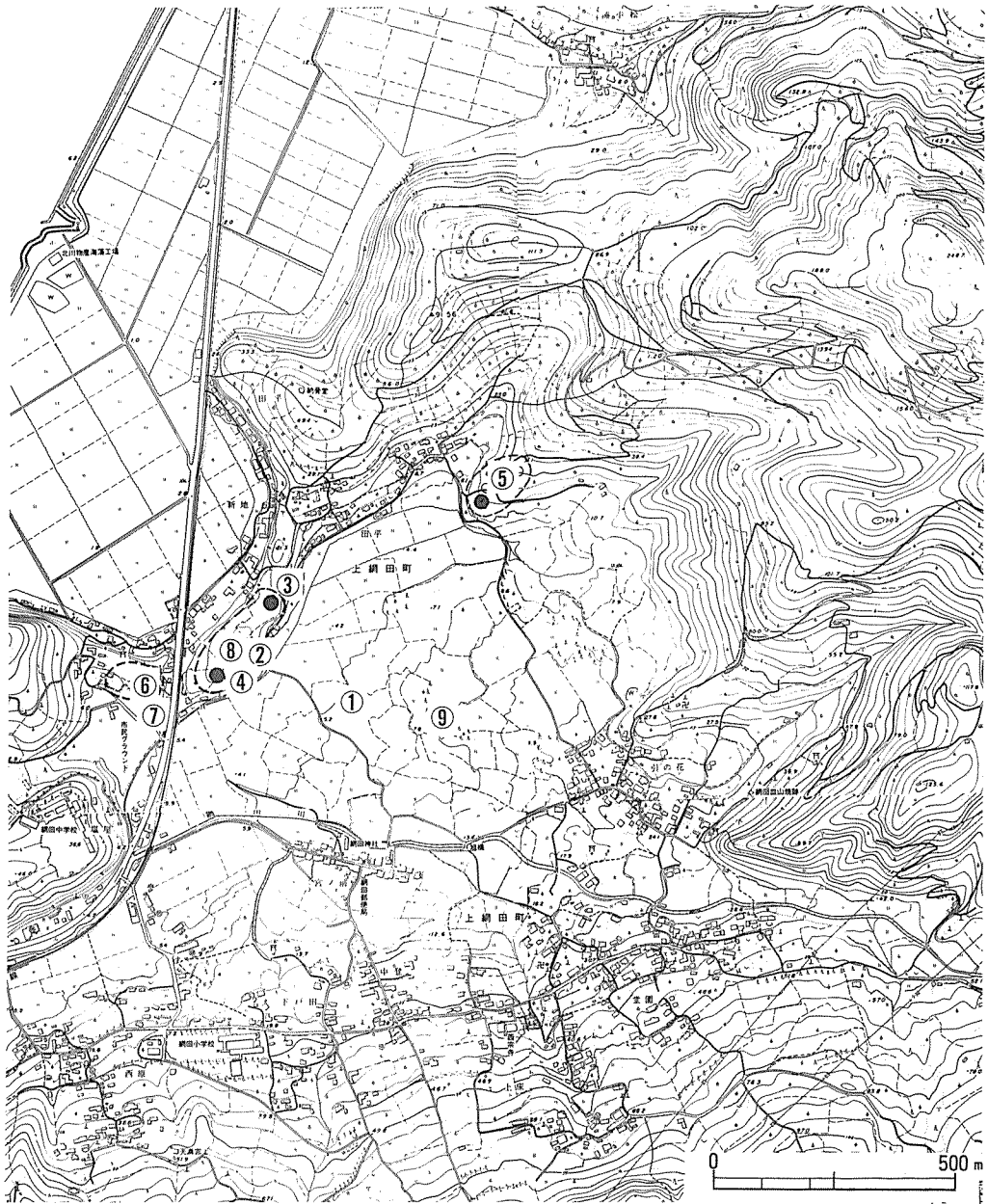
21. 地形図

22. 箱堀

23. 土塁

24・25. 出土遺物 1 坏 2 碗 3・4 皿 5 壺 6・7 火鉢 8 滑石製鋳型

出典 平山修一・木下洋介、1983年『田平城跡』宇土市埋蔵文化財調査報告書第8集、宇土市教育委員会、熊本。



考古資料位置図 (1 : 15,000)

- | | |
|----------------------|--------------|
| ①田平遺跡、旧石器、縄文時代遺物出土地 | ⑥マブシ古墳群 (2号) |
| ②田平城跡押型土器、城古墳群土師器出土地 | ⑦マブシ古墳群 (3号) |
| ③城2号墳 | ⑧田平城跡遺物出土地 |
| ④城1号墳 | ⑨田平遺跡1号土墳墓 |
| ⑤ヤンボシ塚古墳 | |

III 調査の概要

1 調査区

今回の調査区は、網田平野の中央部に位置し、微高地の頂部を中心に、T1からT7までのトレンチを設定して遺構を確認を行った。T5トレンチについてのみ遺構が確認されたので、トレンチを拡張し、調査をすすめた。各トレンチの概要は以下のとおりである。

トレンチ名	規 模	概 要	遺 構	遺 物
T1	2 m × 4 m	微高地の最頂部の果樹園に位置する。地表面下30cm～40cmで砂層の地山に達し、遺構・遺物ともに認められなかった。		
T2	2 m × 8 m	地表面下30cm程で暗赤褐色土となり、この層から縄文土器・磁器等が出土したが、いずれも攪乱を受けた状態である。		縄文土器・磁器
T3	2 m × 8 m	層序は、耕作土・黒色土・地山となっていて、黒色土層からは、多量の礫にまじって少量の遺物が出土。また、地山は人頭大の石を含む砂層となっている。		
T4	2 m × 10m	トレンチの南西コーナ部分に落ち込みがあり、礫群を検出した。また東端部からは土錘が出土している		土錘
T5	2 m × 20m	T1～T4トレンチより一段下がった水田面に位置する。地表面下約15cmで遺構面に達し土墳墓など検出したので、水田面全体を拡張した。	土墳(縄文時代) 土墳墓(平安時代) ピット	石鏃・縄文土器・土師器・磁器・刀子など
T6	2 m × 10m	微高地の先端部に位置する、遺構の検出はなかった。		
T7	2 m × 16m	遺構の検出はなかった。		

T 8	42m ²	T 5 の北側拡張部分。柱穴と思われるピットを数個確認したが、建物を確認するまでには至らなかった。	ピット	
T 9	120m ²	T 5 の南側拡張部分。遺構が確認されなかった部分をさらに8m×6mの大きさを掘り下げ、全面に礫群を検出した。		
T 10	2 m×6m	層序確認のためのトレンチ。この層位をもって遺跡の基本層序とは考えられない。		



トレンチ配置図 (1 : 300)

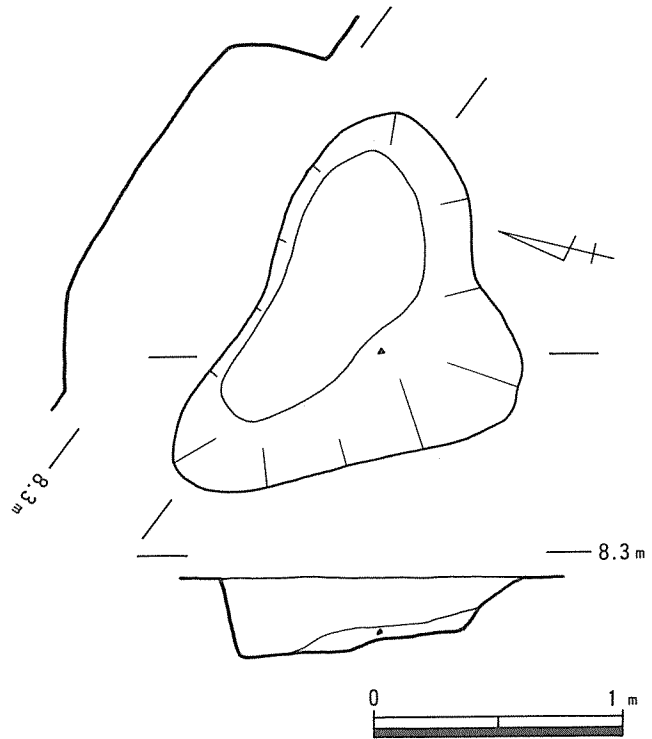
2 遺 構

1号土壌

長さ172cm、最大幅117cm、深さ32cmを測る。埋土から黒曜石、また直上からは縄文土器が出土している。

1号土壌墓

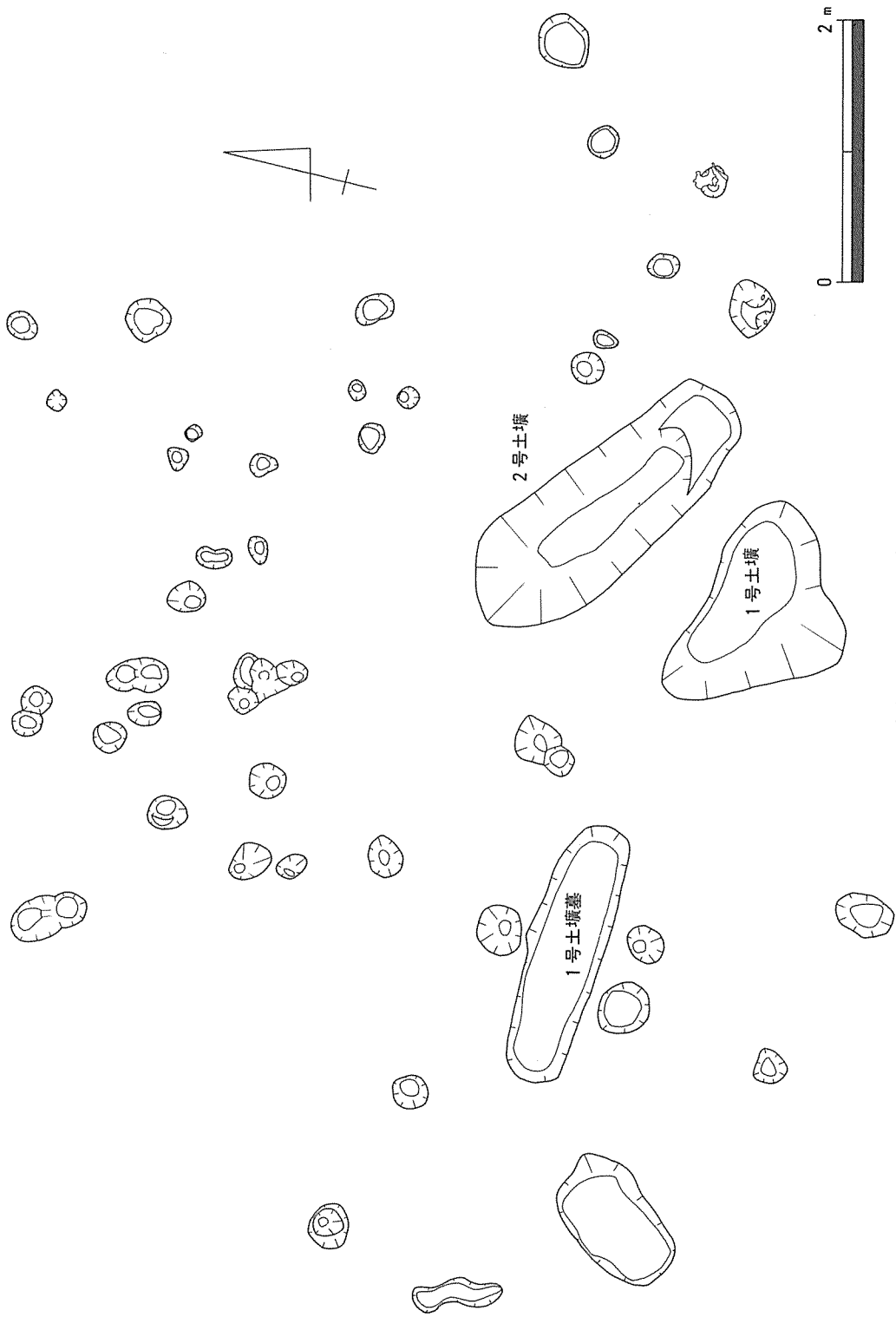
主軸を東西（N-84°-W）に向け、長さ202cm、幅55cm、現存での深さ12cmを測り、その平面形は隅丸長方形を呈する。土壌墓の東側からは、土師器碗2個が口縁を合わせた状態で出土。また、中央部南側からは刃部を南に、刃先を東に向けた刀子が出土している。土師器の特徴から平安時代に



1号土壌実測図（1：30）



5 T 全景



T 5 遺構配置図 (1 : 50)



1号土壙墓

比定できよう。

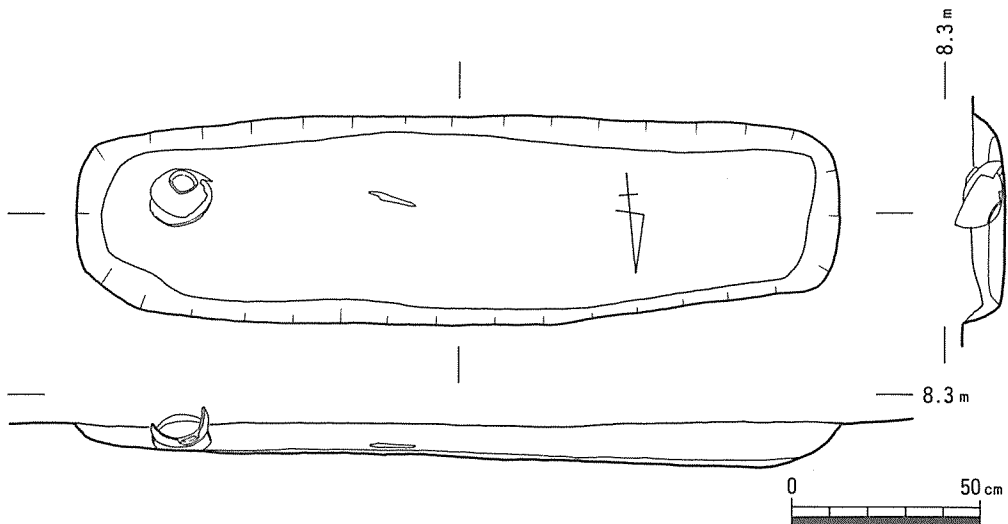
その他 2号土壙や柱穴については、検討を要する。

3 遺物

1号土壙墓

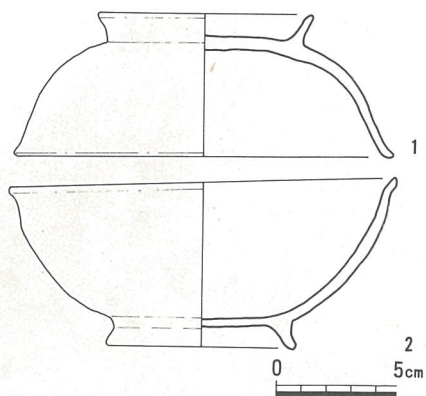
(1)は口径15.5cm、器高5.8cm、高台径8.5cm、高台高1.3cmを測る、ほぼ完形の土器である。高台は薄く、「ハ」字形に貼付けたものであり、体部は、内湾しながら立ち上がり、口縁部で外側へひらく。また、体部には、内外面ともにヘラミガキがみられる。底部はヘラ切り離しである。色調は、内面と外面の上半はいぶしのため黒色、その他の部分は黄灰色である。胎土には雲母が含まれ、精緻である。

(2)口径15.5cm、器高6.5cm、高

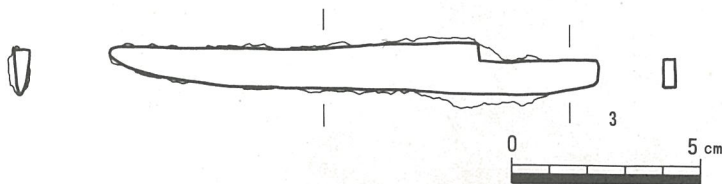


1号土壙墓実測図 (1:20)

台径7.6cm、高台高1.2cmを測る。(1)に比べ器壁が厚く、体部は口縁部まで内湾しながら立ち上がり、強く外側へひらく。高台は貼付で、断面は「く」字形をなす。ヘラミガキが体部内面と外面の一部に認められる。底部はヘラ切り離しである。内面の色調は、いぶしを施しているため黒色、外面は、黄灰色である。胎土には細かい雲母を含んでいる。



実土遺物実測図 (1 : 3)



出土遺物実測図 (1 : 2)

(3)は鉄製の刀子である。全長12.9cm、刃渡り9.8cm、柄3.1cmを測り、背関に段がつく。

IV 最後 に

今回の田平遺跡の調査成果を整理してまとめたいが、検出した遺構・遺物が極めて少ないため、本遺跡の性格等について十分に把握することが出来なかった。

しかし、前回55年の調査時には旧石器の出土、また今回は平安時代の土壙墓の確認と、平野域においても徐々にその歴史が明らかになりつつある。また、来年度以降も調査の予定があり今後の発見に期待するものである。

田平遺跡 II (田平遺跡高道地区)
調査概報

宇土市埋蔵文化財調査報告書 第14集

昭和61年 3月31日

編集・発行 宇土市教育委員会
熊本県宇土市浦田町51番地

印刷 (資) 下 田 印刷

